

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872400262		
法人名	有限会社 SESケアネット		
事業所名	あっと ホーム きりん荘	ユニット名	
所在地	〒302-0118 茨城県守谷市立沢950-1		
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年7月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年2月19日	評価確定日	平成22年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>何よりも入居者本位であること。 持てる能力が、各々違う、一人一人の目線で、本人本位で生活していくこと。 又、共同生活であるため、仲良く、人と人との交流を大切に。 もう一つは、季節を感じながら、生活すること。 幼い頃の記憶、日本の年中行事を大切にすることで、心豊かに生活する。残された記憶に呼びかけ、感性豊かに生活することを大切にしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>全職員で事業所の概念をブレインストーミング法を用いて作成し「あなたの心の声に耳を傾け、想いが叶えられるように努力します。」を理念の一つに掲げ、共有し実践につなげている。 職員はチャレンジカードや能力開発カードを用いて半年毎の目標を設定し達成度を自己評価するとともに、管理者は年2回職員ヒアリングを行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。 看取り介護については利用者や家族等の意向にそって対応できる体制を築いている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が参加し、「認知用の理解」を目的とした学習会を開催し、BS法、KJ法を用いた理念づくりを行った。地域に根付いたGHになるようにという思いを含めた理念になっており、管理者は定期的ミーティング（月1回）において、取り組むべき目標を具体的に伝達している。毎日の申し送りの中でも確認している。	意見や発想を出し合うブレインストーミング法を用いて、全職員で「利用者の全てを受け入れ地域との交流やふれあいを増やし、自分らしい生活ができるように支援する」を旨とした理念を作成するとともに、玄関やキッチンに掲示し共有している。 管理者は定期的なミーティングで利用者一人ひとりのケアについて伝達し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市役所や自治会から行事（音楽祭やお祭り）の情報を得て、積極的に参加し、地域の方と交流を図っている。また、近隣の住民の方には、野菜作りを教えていただきながら、畑を耕していただいたり、白菜の消毒をしていただくなど、日常的に交流英ている。散歩の途中の立ち話も楽しみとなっている。	自治会に加入していないが、運営推進会議や市の広報紙などから市内の行事の情報を把握し、市の福祉まつりや地域の音楽祭、協力医療機関で開催する夏祭りに参加している。 事業所には自家菜園があり近所の農家の人々に耕してもらったり、野菜作りの協力をしてもらいながら地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の主催する勉強会で、GHの紹介を行ったり、実践しているけあについて、症例発表を行うなど地域にみかけての取組みを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録をスタッフ全員に報告し、定期ミーティングにおいて、サービス向上のための検討事案や意見要望について話し合いを行っている。	運営推進会議は家族等の代表が交代制で参加するとともに市の地域包括支援センター職員や区長、民生委員、施設長などで2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の現況報告や委員それぞれの立場から運営上の意見が出され、利用者のサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議の構成メンバーに地域との交流を充実するため近隣住民の代表を加えるなどの取り組みを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市主催の研修会などにケアマネージャー、介護スタッフが参加している。施設内での事故や、苦情等の報告は直接たんとうしゃへ報告することを義務付けている。	地域包括支援センターの会議や市主催の研修会に参加するとともに、事業所内の事故報告などの機会に、事業所の現況を伝えながら市担当者と協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアマネージャー研修や、開設者研修会に参加し、スタッフも関連事業所開催の研修に参加し、知識習得に努めている。玄関等も安全を確保しつつ日中は自由に出入りできる状態になっている。家族から夜間の転倒防止のためベッド柵の固定の要望があった際にもGHの方針を示し、納得を得て、拘束しないケアに取り組んでいる。	管理者は身体拘束に係わる研修会の資料等を全職員に回覧したりコピーし、共有できるよう取り組んでいる。 法人の身体拘束廃止委員会で「身体拘束はなぜいけないのか」、「緊急止むを得ない時とは」などを話し合うとともに、全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネージャー研修や開設者研修において知識習得に努め、スタッフも関連事業所開催の研修において、虐待防止法についての内容をしっかりと認識しホーム一丸となって、虐待が見過ごされることのないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャー研修、開設者研修に参加し知識習得に努めている。スタッフがかんれん事業所開催の研修において、制度の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際は、口頭と文書で分かりやすく、説明し、ふあんや、疑問な点がないか確認しながら、行っている。また、入院等で、退所を余儀なくされた場合は、家族の立場になって、各々の状態に応じて、選択肢が、ある場合には（終末期支援等）それについて、説明を行い、十分に話し合い、家族の理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症ケアの研修に参加し、知識の習得に努め入居者の思いに気づけるケアを心がけている。また、家族の来所時には、近況報告をする中で家族が話やすい雰囲気作りを心がけている。また、ケアプランのカンファレンスや運営推進会議で、意見や要望を尋ねて運営に反映させている。GH玄関には意見箱も設置している。	前回の外部評価結果を受け玄関に意見箱を設置したり、家族等へ無記名のアンケートを実施している。 家族等の面会時には担当職員が利用者の近況を伝え、家族等からの意見や要望等を聴き運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接（2回/年）や定期ミーティング、親睦会の他、管理者は、随時、スタッフの意見を聞く機会を作り、現場の大切な意見として耳を傾け、ケアの質の向上や仕事への意欲の向上につなげている。	事業所では職員のスキルアップのためにチャレンジカードや能力開発カードを用いるとともに、それに基づいて職員は自ら6ヶ月の目標を設定してその達成度を自己評価し、3月と9月の年2回管理者の面接時に評価を受け意見等を出している。 管理者は日常業務のほか職員親睦会の行事の時に、職員の意見等を聞く機会を設け、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期面接（2回/年）の際、目標に対する達成度、その経過（努力、実績）について評価し、向上心を持って、仕事に取り組めるよう、スタッフ個々の考えや思いを把握するよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の能力や段階に応じ、OJT又、関連事業所内外の研修に参加している。研修報告書は全スタッフに回覧し、定期ミーティングの際に伝達研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関連事業所における教育システムにより、新人、現任教育にOJT、OFF-OJTを取り入れている。又、関連事業所、及び市内のGHと合同で運営推進会議を開催したり、訪問、見学を行ない、交流を図ることで、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーからの情報だけに頼ることなく、GHでセンター方式を活用し、家族、本人からアセスメントを行なっている。入居者一人一人に合わせたコミュニケーション技法を活用し、心の声、訴えを理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの面接時から傾聴の姿勢に心掛けている。家族との信頼関係構築のため、担当を中心として窓口を作りながら、家族の意見や要望をしっかりと受け止め、検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員や管理者が直接利用者本人、又、家族と面接し、場合によっては、介護保険の申請、ケアマネジャーの介入や、他のサービスの紹介などを行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、尊敬する気持ちを忘れず、一人一人に接しており、表情、言動を確認しながら、同じ目線で行動を共にし、共感し、日々の生活の中で、関係性を築いている。又、昔ながらの料理（おはぎ、草餅等）、編み物、習字等教えてもらう機会を多く作り、得意な分野で個性、力の発揮ができるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期のアセスメントだけでなく、ケアプランのカンファレンス、又、面会時等、入居者の近況報告をする中で、本人と家族の今までの関係性、家族の家庭環境、思いを直接聞き出し、共感することで関係性構築に努めている。又、認知症についての説明や相談をすることで共に考えていけるよう、アプローチしている。初詣等の外出行事にも、家族の協力を得ており、共に過ごす機会も多く設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元が近くの入居者は、買物や外出のついでに、自宅や近所に立ち寄りたり、古くからの友人が訪ねて来てくれたり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。行き付けの化粧品店には、買物に行く他、手作りのお菓子を持っていき、お茶の時間を楽しむ等、社会性を保った生活の支援に努めている。	自宅が近い利用者は買い物など外出の際に自宅や近所に立ち寄って馴染みの人と話をしている。 利用者によっては大型店舗の中にある以前から行きつけの化粧品店へ買い物に行くなど、職員は利用者の馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の能力、得意分野を理解し、日常生活、レクリエーション、行事の中で、各々が力を発揮し、協力し合える機会を多く作るよう努めている。又、交友関係が深まっていくよう、スタッフが会話のきっかけを作り、気の合う方がみつかるとよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いを出したり、買物や外出の際、近くに行くことがあった場合は、挨拶に伺い、行事へのお誘い等声を掛けている。GHに立ち寄ってくれる家族もあり、相談、支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話の中で、又、言語的コミュニケーションがとれない場合は、センター方式を活用し、生活背景、生活リズムから、希望や意向を把握するよう努めている。本人の意思、ペースを尊重し、入居者本位を第一に検討している。	職員は契約前に利用者宅を訪問し家族等から情報を聴いたり、センター方式を活用して利用者の生活歴や思いの把握に努め、意向にそって日々のケアに努めている。 意思疎通が困難な場合は家族等から情報を得たり、日々の生活リズムや言動などから思いを理解できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用した情報収集と本人との会話、又、面会時、ケアプランのカンファレンス時、家族からのモニタリングを継続することで把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、情報だけに頼ることなく、心身状態、できること、できないことを見極めるよう努めている。過剰な援助にならないよう、見守りを心掛け、把握した現状については、ケア記録や、毎日の申し送りにより、全スタッフが情報を共有できるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、担当者を決め、入居者本人の思いを一番の課題とし、全スタッフで、三ヶ月評価、六ヶ月評価を行なっている。家族とのカンファレンスにより意見、要望をくみ取り、ケアプランを作成している。又、状態変化のあった場合には不定期にプランの変更、追加を行ない、現状に即したケアプランの作成に努めている。	利用者の思いを第一に考えて利用者の希望や要望、生活習慣、好みの物などの生活歴を把握し、3ヶ月の短期目標や6ヶ月の長期目標を定め、全職員で3ヶ月評価と6ヶ月評価を行い、家族等の意見や要望を組み入れ介護計画を作成するとともに家族等の確認印を得ている。 心身の状態に変化が生じた場合は6ヶ月ごとの見直しにかかわらず、随時現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚で一週間の記録ができるよう用紙を改善し、入居者の行動や気付きを記録している。直接、ケアプランにつなげていけるような事例や意見、感想は色を変えて分かりやすく記入することで全スタッフの情報の共有に役立っており、ケアプランの見直し、作成にも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時間の制限はせず、宿泊にも応じている。医療機関への受診や、家族希望の人間ドックの対応も行なっている。又、ターミナルケアは過去に四回実施しており、本人、家族の要望に応じていけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市主催の行事、消防署による火災訓練や研修に積極的に参加している。ボランティアを多く取り入れ、行事やアクティビティを行なっている。区長と民生委員には、運営推進会議に出席を依頼し、意見、情報を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を把握し、円滑に受診でき、かつ、適切な医療が受けられるよう、スタッフが直接、連絡をとる等、かかりつけ医との信頼関係構築に努めている。又、家族が希望する往診をGHで継続できるよう支援している。	利用前からのかかりつけ医を継続して受診している利用者は1人で、他の利用者は協力医療機関の受診となっている。 利用者の全員が4週間に1度協力医療機関の往診を受けているほか、利用者によっては毎週火曜日に往診を受けている。 家族等は少ない人でも月1回は事業所に来訪するので、緊急の場合は別としてその時に受診結果を知らせ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師一名を配置している。毎日の申し送りにも参加しており、日常の健康管理の他、些細な異常にも早期発見、早期対応ができています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望を聞きながら、病院との連携を図り、できる限り早く退院できるように、積極的に働きかけを行っている。退院前には、医師より、治療経過、注意事項等の説明を看護師、管理者が家族と共に受け、受け入れ体制を整えている。又、協力病院からの担当医の往診によって、情報交換も円滑に行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、又、ケアプランのカンファレンスの際、終末期における希望、意向をくみ取り、GHでの看取り介護の指針の説明をしている。重度化した場合や、急変の可能性がある場合は、その都度、家族が担当医より説明を受けられるように連携を図り、十分な話し合いを行ない、全スタッフが方針を共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の看取り介護の指針を文書にて説明し、家族等の承認を得ている。 ターミナルケアについては過去4例実施しており、終末期ケアの対応マニュアルも整備されている。 利用者や家族等から看取り介護の依頼があった場合は依頼書や同意書の承諾印を受け家族等の意向に従いながら支援するよう取り組んでいる。 重度化した場合や急変の可能性がある場合は、家族等がその都度担当医より説明を受け話し合えるよう、全職員が看取りの支援体制を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、スタッフは、消防署による緊急対応の研修等に参加し、訓練を行っている。定期ミーティングの際、全スタッフに伝達研修を行ない、繰り返し、訓練を行なうことで、実践力を身につけられるよう、努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による防災訓練に参加し、又、施設内勉強会により、避難方法を全スタッフが把握できるよう努めている。食料、飲料水三日分は倉庫に常備している。避難経路の地図をGH内の壁に貼っている。	同一建物にあるデイサービスやショートステイと合同で災害対策を実施している。 消防署立会いのもと、夜間を想定した消火訓練や避難訓練1回を含め2回実施している。 備蓄については乾パンや飲料水を3日分備えている。 職員は事業所内の勉強会により避難体制を共有しているが、地域の協力体制を築くまでには至っていない。	運営推進会議では既にこの件を提起した経緯はあるが、災害時には地域の協力体制が重要なのでさらに課題として取り上げるとともに、日々の生活面で協力を得ている農家の人々や地域の消防分団などに働きかけ、災害時に地域の協力が得られるよう取り組みむことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修では、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。日常的にもOJTで指導を続けながら、言葉遣いと態度を全スタッフが心掛けている。又、入職時は、個人情報取り扱いについて、説明を受け、同意書も作成している。	職員の新人研修では身体拘束に関することや高齢者への接遇対応を習得する研修機会を設けている。 日々の生活面においては態度や言葉遣いに関して管理者が指導し、全職員が共通認識のもと、利用者に対応できるよう取り組んでいる。 利用者の書類等は鍵つきの書庫で保管しているほか、事業所便りや事業所に掲示する写真等については、文書で家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人の表情や言動から、伝えたいこと、訴えたいことの理解に努めている。スタッフの思い込みで決定するのではなく、選択できるもの（衣類、食べ物等）は、本人に選択してもらったり、何がしたいのか行動を見守る等、自己決定を促す働きかけを積極的に行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は一人一人の生活リズムに合わせて、朝食は一斉ではなく、本人のペースで摂っている。食事でも嚙下状態、咀嚼力、又、好みに合わせ、個々に対応している。入浴時間も本人の希望にそって支援している。レクリエーション、アクティビティーにおいても、必ず、全員が同じことを行なう訳ではなく、本人が好むものを各々楽しめるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が定期的に馴染みの美容室に連れていく入居者もいる。他の入居者は月に一度の訪問美容室を利用しており、シャンプー、カット、パーマ、カラー等、本人や家族の希望通りのおしゃれができています。毎朝の整髪でも、スタッフが髪を結い、本人の希望通りの馴染みのおしゃれが継続できています。行事、外出時には、化粧を促し、おしゃれ心を忘れない支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、嚥下状態や体調に合わせ、安全に楽しく食事ができるよう努めている。得意料理がある入居者には、みんなに教えてもらう形で中心となって、一緒に調理している。食事中も各テーブルにスタッフを配置し、できあがった料理や食材、畑で収穫した野菜の話題等で、会話を楽しみながら、食事している。後片付けも全員で協力して行なっている。	起床や就寝の時間などは利用者一人ひとりの生活リズムがあるので、朝食は一斉ではなく利用者のペースに合わせている。 利用者一人ひとりの好みを把握し、嚥下状態や体調に合わせた食事づくりをしている。 できる利用者には盛り付けや配膳、後片付けなどを手伝ってもらい、職員は同じテーブルで利用者の介助や見守りをしながら一緒に食事を摂っている。 利用者の誕生会や年間行事の食事は特別メニューで楽しみな食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、栄養、水分摂取の状態を全スタッフが把握できるようにしている。一人一人の好みを把握し、水分不足を補うために、果物やゼリーを提供している。又、提供のタイミングや食器も一人一人の習慣や好みに合わせ工夫している。献立表を作成し、管理栄養士の指導を受けながら、栄養面で偏りが出ないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導、準備等、個々に必要な支援をしている。三日に一度は入れ歯洗浄剤を使用し、殺菌消毒を行なっている。必要に応じて歯科往診も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を活用し、排泄リズムを把握し個々に合わせた誘導により、紙パンツから布パンツに替えたり、失禁の減少等の支援ができています。	職員はチェック表を活用し利用者一人ひとりの排泄リズムを把握してトイレ誘導している。 職員が利用者を誘導する際は大きな声を発しないなど、声かけに配慮している。 紙パンツから布パンツに替えるなど排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中に繊維質の多い野菜、海藻、乳製品、プルーン等を積極的に取り入れている。寒天を使用したおやつ作りも行なっている。又、毎朝の体操も日課として実践している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間、曜日、回数（最低三日に一度）等は決まっておらず、今までの生活習慣に合わせ、入りたい時、いつでも入れるよう一人一人の希望にそって入浴している。又、しょうぶ湯、ゆず湯等、季節を感じながら入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	風呂は毎日入れる状態にして、入浴の曜日や時間帯は決めずに利用者の意向に合わせた支援をしている。 少なくとも3日に1度は誰もが入浴できるように支援している。 季節を感じる柚子湯や菖蒲湯、乾燥させた大根の葉などを利用して、寛いで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	協同生活のストレスを考慮し、状況に応じて、自室でくつろぐ一人の時間を作っている。食堂と自室の間に畳の部屋、ソファ、又、ベランダと中庭には、ベンチを設置している。日中の活動性を高め、安眠できるよう支援している。又、寝付けない入居者には、無理強いせず、温かい飲み物をすすめたり、話相手になる等、眠剤は服用させていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルに綴じ、全スタッフが薬の目的、内容、副作用について把握できるようにしている。飲み忘れや誤薬を防ぐため、薬チェックシートを活用し、服薬前後で四回の確認を行なっている。状態変化が見られた際には、看護師、医師、家族に伝え、早期に対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴の情報から得意なこと、好きなことを引き出し、針仕事、編み物、花の手入れ等、張り合いを持って取り組めるよう支援している。洗濯物たため、食器洗い等を自分の役割だと感じ、意欲的に行う入居者が多数いる。又、クロスワードパズルを以前と同様に自室で楽しんだり、ケーキが好きな入居者は家族の協力も得て、入居前と同様に楽しむことができている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の希望があれば、個別に出掛けしている。又、近くへの散歩等は、突然の希望であっても対応している。普段、行けないような場所にも希望にそって、桜のお花見、音楽祭、芋掘り等、外出行事を行なっている。家族の協力も得て、お彼岸やお盆の墓参り、法事等にも参加している。	今年新型インフルエンザの関係で控えめの外出になったが、職員は利用者個別の買い物に付き添ったり季節の花見や地域の音楽祭、芋掘りなどに出かけられるよう支援をしている。 家族等の協力を得て利用者が彼岸や盆の墓参り、法事などに出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者には、多少のお金を持ってもらっている。自動販売機でジュースを買うことが散歩後の楽しみの一つになっている。買物の際には、お釣りがくるような大きなお金を払ってもらい、お金に触れる機会を多く設けている。基本的には、個人のお小遣いは、スタッフが管理し、出納帳を作り、家族に領収書を渡した際にサインをもらい、領収書のコピーも保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、知人から届いた宅急便のお礼等、電話を使用するよう積極的に支援している。その際、誤解が生じないように、スタッフは入居者のプライバシーに配慮しながら、自然な形で側で見守りを行なっている。手紙、葉書を書いた際は、本人と一緒にポストに入れて行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく近代的な物ではなく、高齢者にとって親しみが持てる、和風のものを出している。季節によって、エアコンの温度設定や、光に注意を払い、カーテンの開閉もこまめに行なっている。入居者の好む音楽をかけたり、入居者の手作りの吊るし飾りや季節を感じられる草花を飾る等、居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間には季節の花を始め、事業所の名称にもなっている植物の花きりんが飾られている。 利用者と職員と一緒に制作した四季折々の貼り絵や吊るし雛など手作りの作品を飾り、季節感や生活感を取り入れている。 天窓から外気を取り入れ、温度や湿度を調整しながら居心地よく過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有である食堂と居間を障子で仕切り、違った空間を作っている。又、ソファを置き、自由に居場所を選択できるようにしている。中庭とベランダにもベンチを置き、おしゃべりの場所として活用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を継続して使うことの大切さを家族に説明し、協力を得て、使い慣れた家具、又、本人が大切にしていた物を置いている。一人一人の一日の行動に合わせて、生活しやすく、一人で落ち着いて過ごせる居室作りを工夫している。	居室は畳の部屋が2部屋あり、その他は洋室でフローリングである。エアコンや押入れ以外は利用者の意向や好みに応じてベッドや家具など自由にレイアウトできるようにしている。 利用者はテレビや仏壇、家族等の写真、好みの飾り物を配置して居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺をつけ、自由、安全に歩行できるようにしている。誤認や錯覚を引き起こさないよう、壁紙に配慮し、夜は、窓に姿が映らないよう、電気をつける前にカーテンを閉めている。自室やトイレの場所がわかりやすいよう、表札、貼紙等で工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

区長、民生委員等多くの方の出席を依頼

目 標 達 成 計 画

事業所名 あっとホームきりん荘

作成日 平成22年7月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議構成メンバー	区長、民生委員等多くの方の出席を依頼	H, 22年度より、岩町の区長に出席を依頼する。	3ヶ月
2	35	災害対策における地域との協力体制	地元消防団との連携	避難訓練時、消防署に依頼し地元消防団に連絡を取り、連携を図っていく。(避難訓練の参加等)	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。